

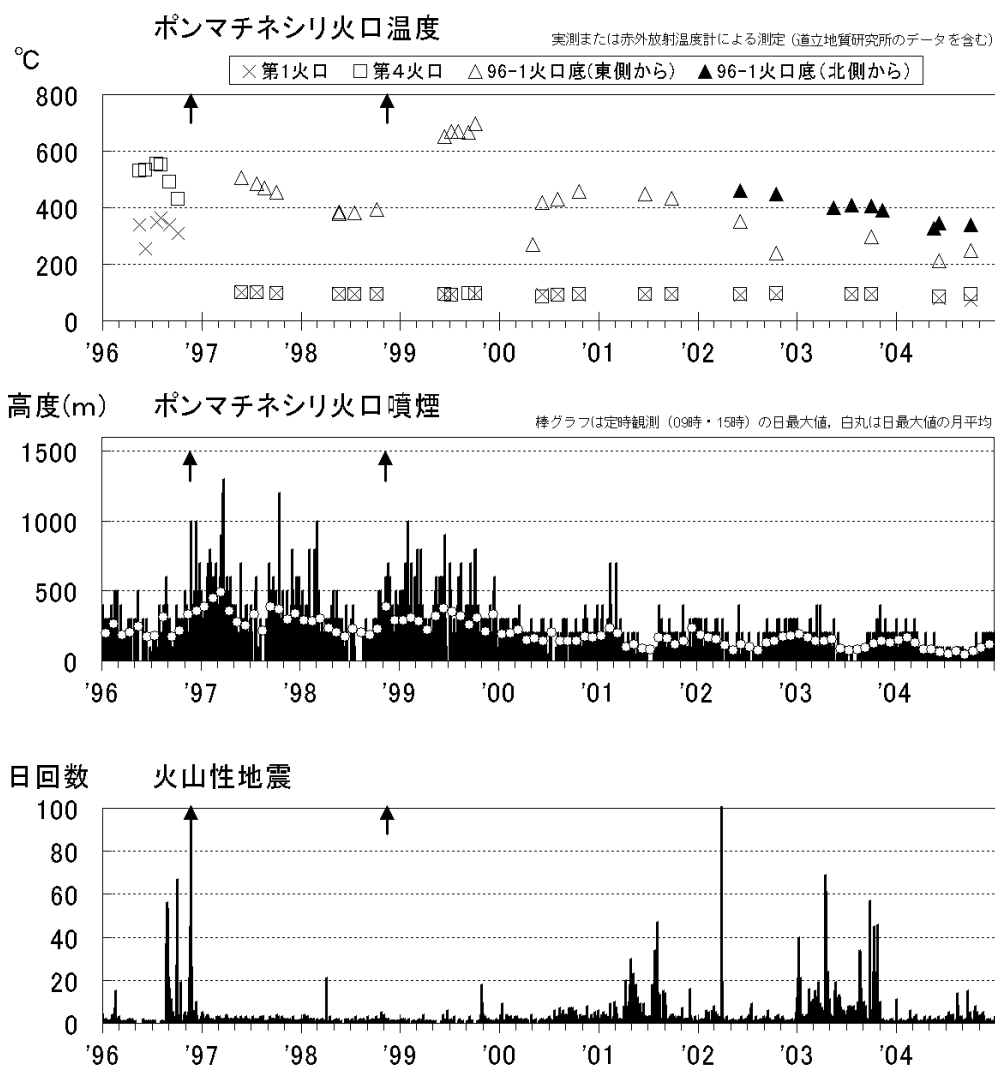
雌阿寒岳

1 概況

ポンマチネシリ 96-1 火口は高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100～200m で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



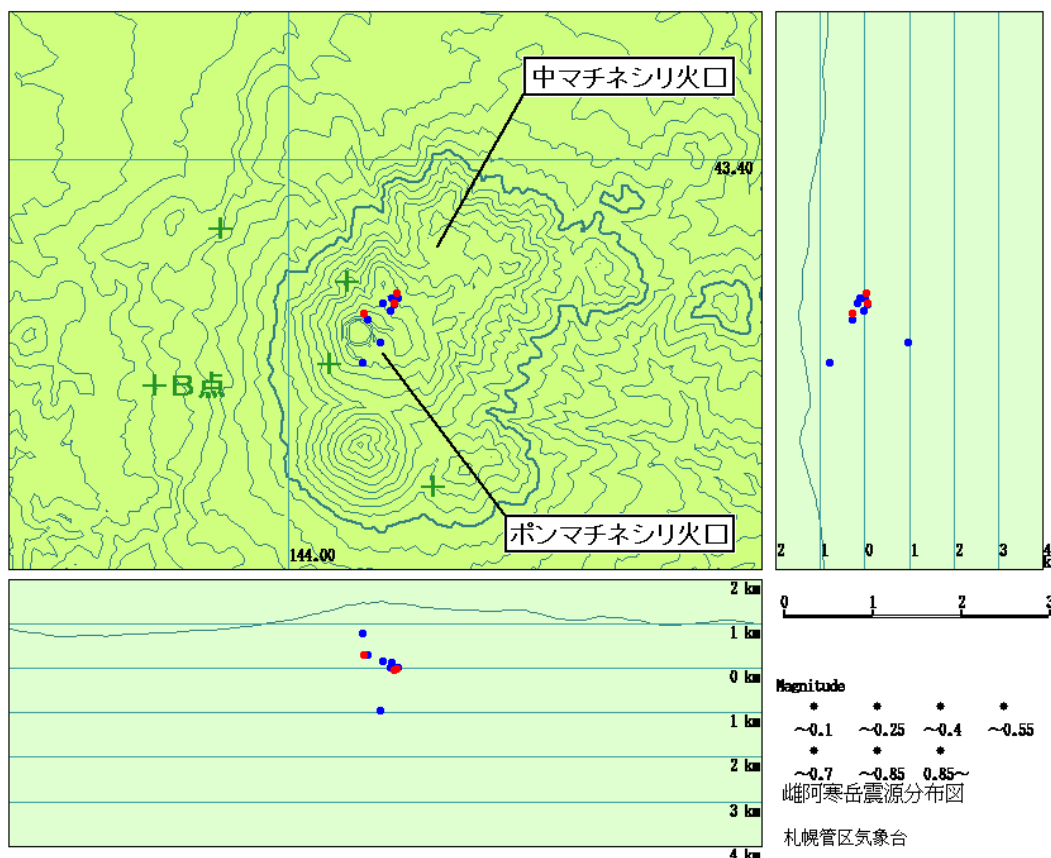
最近の火山活動経過図（1996年1月1日～2004年12月31日） ↑印は噴火

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は1日あたり0～3回と少なく、静穏に経過しました。震源はポンマチネシリ火口浅部に分布していました。火山性微動は2003年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（B点）

2004年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数	19	20	17	15	16	17	33	52	42	40	28	9
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



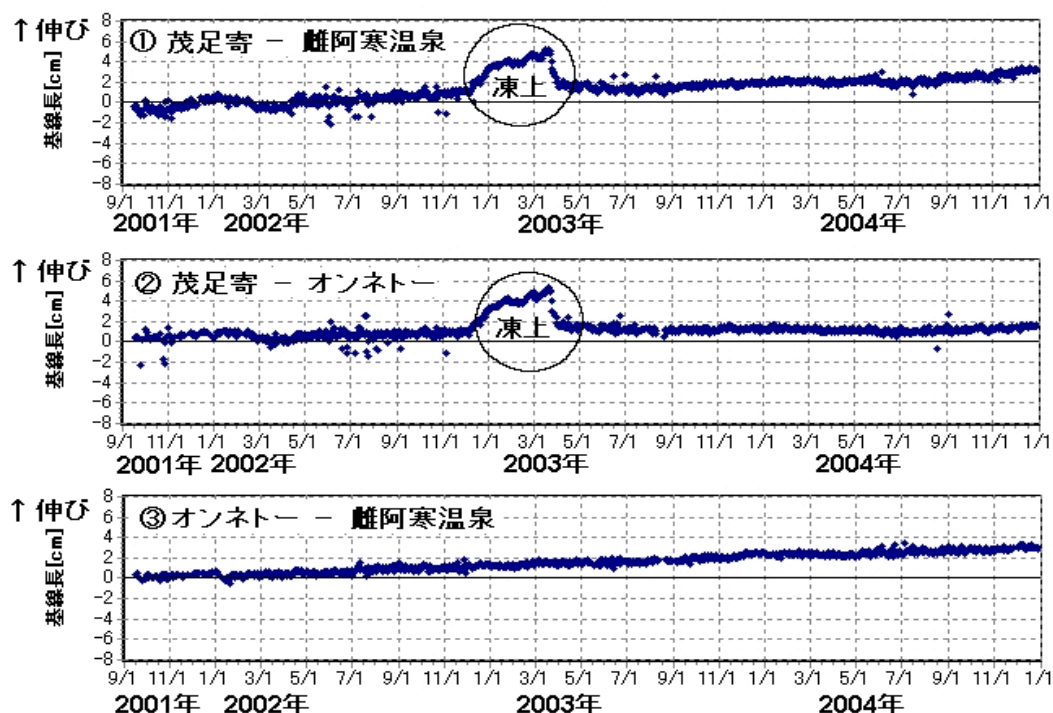
雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

赤丸は今期間（2004年12月1日～31日）に求めた震源を示しています。

青丸は前期間までの約2ヶ月間（2004年10月5日～11月30日）に求めた震源を示しています。震源はポンマチネシリ火口北側の海拔付近に集中しています。

4 地殻変動の状況

西麓でのGPS連続観測では、わずかな伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



基線長変化（2001年9月19日～2004年12月31日）

